

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第41週	第40週	第41週		第40週		第41週		第40週		第41週		第40週		第41週		第40週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	6	18	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	9	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	65	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0
感染性胃腸炎	85	99	9	4	24	4	9	0	23	3	0	0	0	0	4	1	1	1
水痘	21	12	0	2	1	3	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1
手足口病	19	27	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	16	12	1	7	1	0	1	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	26	33	7	0	3	0	3	0	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0
ヘルパンギーナ	48	111	0	0	4	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0
流行性耳下腺炎	4	4	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
RSウイルス感染症	68	76	3	0	4	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	0
流行性角結膜炎	22	15	0	0	0	2	0	0	0	2		0		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
流行中	現在、流行中の感染症はありません
小流行中	<p>＜RSウイルス感染症＞ RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>

インフルエンザの流行に備えましょう

- 県中管内の定点医療機関からインフルエンザの報告がありました。
- 県内では41週に6件の報告がありました。
- 昨シーズンは第48週で1定点当たりのインフルエンザ患者報告数が1.00を超え流行開始しました。
- 現時点では、県全体の患者報告数は多くはありませんが、今後の流行に備え、予防対策に努めましょう。



インフルエンザの予防について

① 流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。

② 飛沫感染対策としての咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。咳やくしゃみを他の人に向けて発しない、また、咳やくしゃみなどが出るときはできるだけマスクをするなど、普段から咳エチケットを心がけてください。

③ 外出後の手洗い等

流水・石鹸による手洗いは、手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触や飛沫感染などを感染経路とする感染症の対策の基本です。また、インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒も有効であるため、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。

④ 適度な湿度の保持

